おんがく広場
Facebook,Twitterにも掲載／リンクフリー／御自由にコピーして下さい
♪Music Square♬
第229号
令和2年(2020)4月10日創刊
令和5年(2023) 4月1日(土)
発行・クッキー会　発行責任者・加藤良一
連絡先　rkato@max.hi-ho.ne.jp

# 新球場で国歌斉唱
## ES CON FIELD HOKKAIDO

男声合唱団ススキーノ　山崎甲子男

新時代の野球場・ボールパーク、北海道北広島市にできた**エスコンフィールド球場**“ES CON FIELD HOKKAIDO”のオープン開幕戦に行ってきました。華やかなセレモニーや選手紹介、新庄監督は天井からでなくグランドの構造物の中から登場しました。札幌交響楽団の選抜メンバーによる演奏で**小柳ゆき**さんの「You raise me up」の熱唱も涙がでるほど感動しましたが、なんとそのアレンジとピアノは**男声合唱団ススキーノ**の専属アレンジャーともいえる**直江香世子**さんでした♬

国歌斉唱は道内各地の少年少女合唱団による「君が代」。

ススキーノの浜岡さんが事務局長をしていた北海道少年少女合唱連盟の**釧路少年少女合唱団**など共演したことのある合唱団の名前もありました。縦16m横85m、世界最大級の大型ビジョンに分割映像で紹介されましたが、私が様々なイベント、セレモニーで「君が代」を聴いてきたなかで最も感動したものでした。

ヒルマン、梨田、栗山3人の歴代監督による始球式はススキーノ内でも予想を楽しみましたが、誰も当てることのできない人選でした。初戦は残念ながら、楽天の田中マー君の力投に完敗でした。勝利の乾杯の盃は２戦目以降となりました。

### 山崎甲子男　プロフィール

1940年生まれ。札幌出身。早稲田大学混声合唱団では大学創立80周年フロイデハーモニーで小澤征爾指揮で「第九」を歌う。STV(札幌テレビ放送)に入社、放送記者、テレビ、ラジオのディレクター、プロデューサーとして音楽番組を手掛ける。ラジオ日本常務取締役編成局長などを経て、現在ラジオカロスサッポロ・エグゼクティヴプロデューサー兼パーソナリティ。2005年に男声合唱団ススキーノに入団、2008年サントリーホールで「男だけの第九」(新日本フィル)を歌う。

※ES CON FIELD球場は、敷地面積5ha、収容人数3万5千人。掘り込み式フィールドから地上4階まで観客エリアが広がっています。周辺環境との調和を考え、建物中層部にテラスを複数造るなど、地域に溶け込むデザインを採用しています。細部にまでこだわった新球場は、日本初の開閉式屋根付き天然芝球場。芝の育成を促すため南側は一面のガラス壁、みずみずしい草の香や色鮮やかなグリーンを目にすることができ、五感で心地よさを感じることができる、プレイヤーファーストとファンファーストの両立を目指した球場です。WBCで侍JAPANが優勝し、人気に火が付いた野球界の新しいスポットのお目見えに、合唱が花を添えました。

# 男声不足の合唱界に朗報か！
## 混声３部の力作に期待

現在、合唱の世界の中心にいるのは女性です。圧倒的に女声合唱団が多く、次が混声合唱団、そのずっと下に男声合唱団が位置しています。この傾向は今後も容易に解決されない問題です。

こんな男声不足問題を音楽的に解決する**SAM-Klangシリーズ**という画期的な音楽が登場しました。ただですら足りない男声を２パートも集めるのが大変ならば、いっそ男声は１パートにし、音楽性を損なわない編曲で、混声三部にしてしまうという発想です。**SAM**とは、**S**:ソプラノ、**A**:アルト、**M**:メンという意味です。古今の名曲を混声三部で歌えるとなれば、男声不足に悩む合唱団にとってはとてもありがたいことです。

この新しい試みは、指揮者モルテン・シュルト＝イェンセンによって企画されました。彼は2022年全日本合唱コンクールの審査員として招聘され、合唱指揮マスタークラスも開催しています。原曲の特徴を生かし、音色もほぼ同じになるよう混声四部(SATB)楽譜を混声三部(SAM)に編曲しています。

(楽譜はパナムジカで扱っています)

モーツァルト《レクイエム》、ハイドン《天地創造》、シューベルト《ドイツ・ミサ曲》、デュリュフレ《4つのモテット》、その他多くの古典作品を、原曲とほとんど変わらない響きで演奏できるといいます。まず17冊が刊行され、今後も拡充予定とのことですが、編曲の主旨は、このシリーズはあくまで原曲の混声四部版に取り組めるようになるまでの繋ぎであるとしていますが、現在の日本の合唱事情を見回しても、とうてい男声があり余るという夢のような状況はそう簡単には訪れそうもありません。繋ぎでも良いので混声三部合唱の素晴らしい楽曲が現われることを期待してやみません。